

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 宮城県本吉郡南三陸町立志津川中学校  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校, 各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例: 小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む  
所在地 〒986-0754  
宮城県本吉郡南三陸町志津川字助作1番地1  
E-mail Shizugawa-jhs@bz04.plala.or.jp  
Website \_\_\_\_\_  
幼児児童生徒数 男子 109名 女子 117名 合計 226名  
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

## 3. 活動内容

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1, 2-1 に対応

本校は「地域とのかかわりを通して、夢や志をもち、震災復興と将来の南三陸町を支える生徒を育成する」を活動テーマとし、ESDを志教育と捉え、ESDの実践を通して「多面的・総合的に考える力」「コミュニケーション能力」「進んで参加する態度」などの育成を目標とした。

具体的には、総合的な学習の時間の学習内容を柱に、①地域防災に係わる学習、②地域を知る学習、③地域で働く学習、④地域の復興に係わる学習を行った。

### ① 地域防災に係わる学習

全校で取り組む学習内容で、生徒の将来における防災的な実践力を向上させるため、3年間継続して行い、訓練と実践が繰り返せるような教育課程を編制し取り組んだ。具体としては、普通救急救命訓練、炊き出し(火焚き)訓練、避難所運営訓練などを行った。防災学習は総合的な学習の時間に限らず、様々な場面で学んできたことを積極的に実践していけるよう導いてきた。今年度からの取組であったが、生徒は意欲的に取り組んでいた。

## ② 地域を知る学習

1年生の学習内容で、南三陸町の地形や風土、歴史や文化などから課題を見出し、課題を追求したり解決したりしていく学習として取り組んだ。主に総合的な学習の時間で行ったが、理科や社会などとの教科横断的な学習にもなっている。また、課題を見出すための情報として、大正大学の出前授業を活用し、南三陸町の森・里・海の深いつながり（森里海連環学）について学習したことは、生徒たちにとって、とても効果的な内容であった。

## ③ 地域で働く学習

2年生の学習内容で、震災復興の視点から地域の産業や将来の南三陸町について調べたり考えたりする学習を行った。その後、課題をもって職場訪問先を決定し2日間の職場体験学習に臨んだ。職場体験学習を通して将来の生き方や正しい職業観・勤労観について考え、気付かせることができ、生徒個々の進路選択にも生かせることができた。生徒たちも職場の方々と積極的に関わりながら進んで学習に取り組んでいた。

## ④ 地域の復興に係わる学習

3年生の学習内容で、地域のために何ができるかを考え、例年南三陸町の「福興市」や「産業フェア」に参加して実践をしてきた。今年度は日程の都合上参加できなかったが、南三陸町総合防災訓練の中で避難所運営訓練を全校で実施し、地域住民の方々の誘導対応や消防署員とともに初期消火活動や瓦礫撤去訓練などを行った。どの場面でも上級生としてのリーダーシップを発揮し、防災の視点から地域の復興を考えることができた。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解, 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化, 文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的, 総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍, ウェブサイト, パンフレットなど具体名)

特になし
------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

宮城県教育振興基本計画では～志を育み、復興から未来の創造へ～をテーマとして掲げ、「志教育」を一層推進させながら生きる力を育てていきたいと示されている。

本校に在籍している生徒は、震災によって大きな被害を受け、著しく環境が変わった中での生活を強いられている。だからこそ生徒たちには、夢と志をもち、震災復興と将来の南三陸町を支える人材に成長してほしいという願いがある。そこで、本校のESDは志教育と捉え、志教育のねらい等を各教科や総合的な学習の時間の全体計画、年間指導計画等に反映させ計画的に指導・実践を行ってきた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌内にESD担当（主幹教諭・教務部長）を設定し、志教育担当、総合的な学習の時間担当、防災主任等と連携を図りながら、活動計画を練り上げ、組織的かつ継続的に活動に取り組んできた。特に大正大学などの外部講師や消防署員等との連絡・調整については、それぞれの担当が窓口となり、細かい打合せ等を行いながら有意義な実践につなげていった。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学期末に実施する学校経営反省会において、教職員の自己評価を分析しPDCAサイクルを意識した各活動の評価と改善を行った。また、生徒に対しても活動ごとに評価を行い、ねらいの達成度を図ったり、将来の生き方に対する意識の変容を見取ったりした。結果として、南三陸町に対する見方や考え方は広がってきたが、個々に行う課題解決学習に関しては課題の設定が不十分で、深い学びにまでは至らなかった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校通信や学年・学級通信で活動の様子を紹介した程度である。発信によって地域や保護者の方々に学習活動の意義や様子を理解してもらうことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域を知る学習において大正大学と連携し、森里海連環学を実施した。リーダーとなっている大正大学の山内明美准教授は南三陸町出身の方であり、南三陸町の分水嶺という地形から森里海のつながりを学べる学習プログラムを作成し、多彩な講師をお招きしたり、馬搬活動を見学させたりしながら、生徒の地域を知る学習に積極的に貢献していただいている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

特になし

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒，教員，カリキュラム・教授法，学校経営，地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

3年間を通して南三陸町という地域を学び，毎年，個々に大きな夢や志をもって卒業していく生徒が多く見られる。今年3月に卒業した生徒に将来の進路先を聞いてみると，消防士，役場職員，復興に当たっている土木作業員，心理士やカウンセラー，復興に携わる仕事などに就きたいと回答する生徒がとても多く，そのように考えるきっかけをこの活動を通して与えることができたのではないかと捉えている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成29年度と同様に，ESDを志教育と捉え実践していく計画である。具体的には，総合的な学習の時間の学習内容を柱として「地域防災に係わる学習（全学年共通）」，「地域を知る学習（1学年）」，「地域で働く学習（2学年）」，「地域の復興に係わる学習（3学年）」を実践する。